

茨城県におけるアカボシゴマダラ (チョウ目: タテハチョウ科)
の記録

柄澤保彦・中川裕喜・益子侑也・潮田好弘・
須藤英治・山川 稔

**Records of *Hestina assimilis* (Lepidoptera: Nymphalidae)
Collected or Observed in Ibaraki Prefecture, Central Japan**

Yasuhiko KARASAWA, Yuki NAKAGAWA, Yuya MASHIKO,
Yoshihiro USHIODA, Eiji SUTO and Minoru YAMAKAWA

茨城県自然博物館研究報告 第15号別刷

平成24年12月発行

Reprinted from Bulletin of Ibaraki Nature Museum No.15

December, 2012

茨城県におけるアカボシゴマダラ (チョウ目: タテハチョウ科) の記録

柄澤保彦* · 中川裕喜** · 益子侑也*** · 潮田好弘** ·
須藤英治* · 山川 稔*,****

(2012年12月5日受理)

Records of *Hestina assimilis* (Lepidoptera: Nymphalidae) Collected or Observed in Ibaraki Prefecture, Central Japan

Yasuhiko KARASAWA *, Yuki NAKAGAWA **, Yuya MASHIKO ***,
Yoshihiro USHIODA **, Eiji SUTO * and Minoru YAMAKAWA *,****

(Accepted December 5, 2012)

Key words: Lepidoptera, Nymphalidae, *Hestina assimilis assimilis*, Ibaraki Prefecture.

タテハチョウ科 (Nymphalidae) に属するアカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus, 1758) は、日本においては亜種 *H. assimilis shirakii* Shirozu が南西諸島、奄美群島の奄美大島や徳之島 (鹿児島県) などのいくつかの島にのみ産するが、近年神奈川県を中心とする関東一帯でも類似の蝶が頻繁に見られるようになった (矢後, 2012)。関東では、1 年限りではあったが 1995 年に埼玉県で初めて観察され (白水, 2006)、その後 1998 年に神奈川県藤沢市で確認されてから数年の間に神奈川県で多発している (日本チョウ類保全協会, 2012)。2006 年には、東京都内でも記録されている (自然環境研究センター, 2008)。さらに 2010 年以降は千葉県や埼玉県などの関東南部、山梨県、静岡県からも記録され分布の拡大が見られるようになった (矢後, 2012)。

アカボシゴマダラは日本産亜種以外に中国大陸産

亜種 *H. assimilis assimilis* (Linnaeus) と台湾産亜種 *H. assimilis formosana* Moore が知られているが、関東地方などに定着したアカボシゴマダラはその形態的特徴から中国大陸産亜種と推定される。人為的な放蝶の可能性が高いといわれ (自然環境研究センター, 2008)、「要留意外来生物」に指定されている。

茨城県では 2011 年 7 月 20 日に桜川市真壁町大塚新田で初めて成虫が写真撮影されたが (森, 2012)、同県における 2 ~ 4 例目の個体が 2012 年 6 月と 8 月に坂東市で採集されたのでここに報告し、北関東三県の栃木県、群馬県、茨城県における記録を比較する。

著者の一人、柄澤は 2012 年 6 月 8 日に茨城県坂東市大崎のミュージアムパーク茨城県自然博物館敷地内のクヌギ (*Quercus acutissima*) やスギ (*Cryptomeria japonica*) を主体とする雑木林の南向きの林縁にある

*ミュージアムパーク茨城県自然博物館ボランティア 〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

**ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

***ミュージアムパーク茨城県自然博物館ジュニア学芸員 〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

****独立行政法人 農業生物資源研究所 〒305-8634 茨城県つくば市大わし 1-2 (National Institute of Agrobiological Sciences, 1-2 Owashi, Tsukuba, Ibaraki 305-8634, Japan).

エノキ (*Celtis sinensis*) の付近を飛翔していたアカボシゴマダラの春型 (白化型) 1 個体を採集した (図 1c)。次いで、著者の一人、中川は、2012 年 8 月 1 日に同博物館敷地内のソメイヨシノ (*Prunus x yedoensis*) に囲まれた砂場の東向きの林縁にあるエノキの付近を飛翔し、石に静止したところを採集した (図 1a)。さらに著者の一人、益子が 2012 年 8 月 8 日に同博物館のサザンカ (*Camellia sasanqua*) に静止していたアカボシゴマダラ夏型 (図 1b) を各 1 個体を採集した。中国大陸産アカボシゴマダラの春型はしばしば白化することが知られており (加藤, 2007), それが日本産亜種や台湾産亜種と大きく異なる特徴である。図 1d に著者の一人、山川が鹿児島県奄美市名瀬朝仁で採集した日本産亜種を示すが、今回、坂東市大崎で採集された個体 (図 1a, b) と比較すると後翅の斑紋に相違がみられる。さらに、日本産亜種には白化型は出現しないため、関東で定着しているものは中国大陸産亜種である可能性が高い。

茨城県では上述のように 2011 年に桜川市で、そして 2012 年に坂東市でアカボシゴマダラが確認されたが、今回の採集地である坂東市のミュージアムパーク茨城県自然博物館の位置は、利根川を挟んだ千葉県野田市に近い。野田市ではすでに本種の発生が数多く確認されていたこともあり (関, 2011), 坂東市への侵入は時間の問題だと思われていた。北関東においては図 2 に示すように、栃木県の足利市 (長谷川, 2011; 平澤, 2011) と小山市 (青木, 2011), 岩舟町 (山岸, 2011), 真岡市 (山岸, 2011), 栃木市 (落合, 2012) で、群馬県の太田市 (宮畑, 2011) と高崎市 (池沢, 2011), 沼田市 (山崎, 2011), 玉村町 (安達, 2011), 館林市 (江田, 2011) で報告がある。これらの報告と茨城県 (森, 2012) での報告を合わせると、中国大陸産亜種のアカボシゴマダラが分布域を速いスピードで関東平野の北部にも広げていることを示しており、今後とも注意深く観察する必要がある。

アカボシゴマダラの幼虫は、オオムラサキやゴマダ

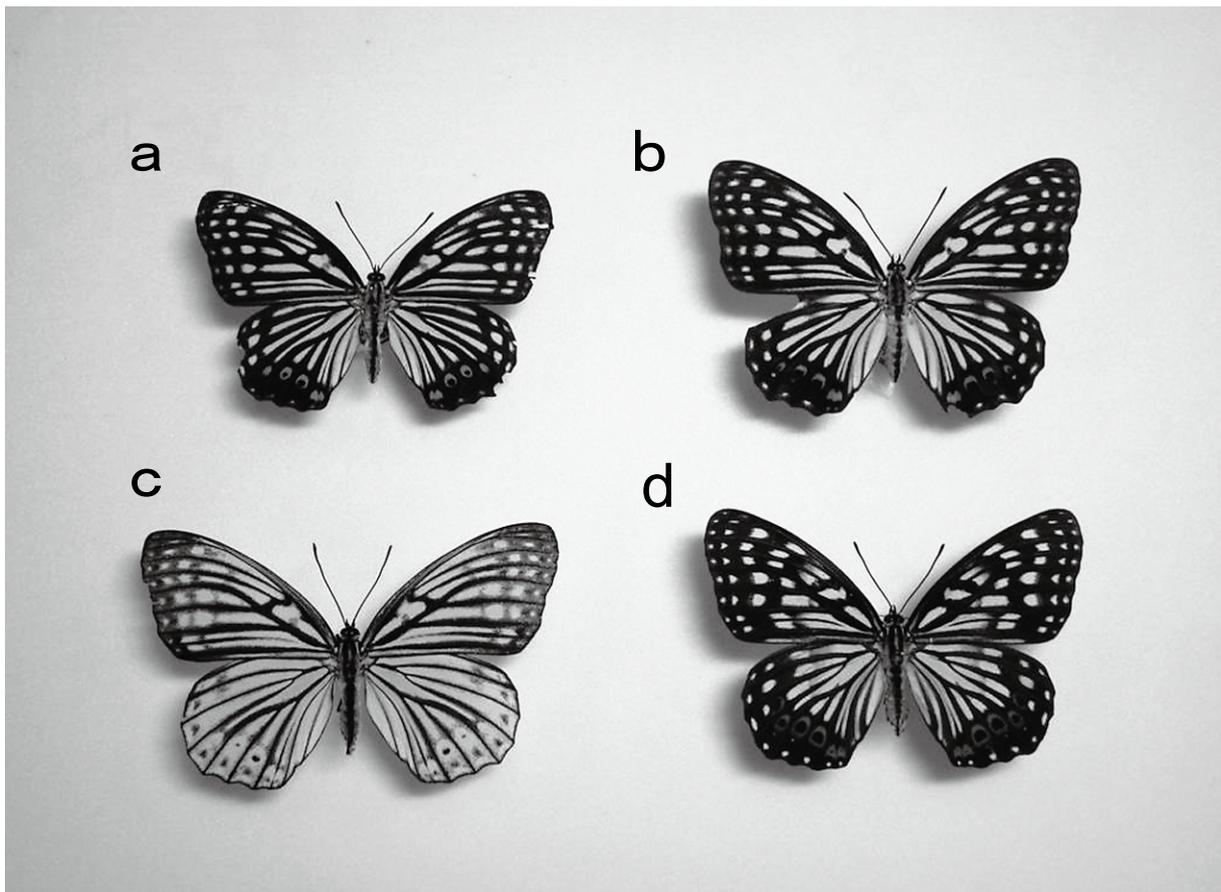


図 1. 茨城県坂東市大崎 (a~c) と鹿児島県奄美市名瀬朝仁 (d) で採集されたアカボシゴマダラ。a: ♂, 2012 年 8 月 1 日, b: ♀, 2012 年 8 月 8 日, c: ♀, 2012 年 6 月 8 日 (白化型), d: ♀, 2012 年 7 月 2 日。

Fig. 1. *Hestina assimilis* collected in Osaki, Bando City, Ibaraki Prefecture (a-c) and Nazeasani, Amami City, Kagoshima Prefecture (d). a: ♂, August 1, 2012, b: ♀, August 8, 2012, c: ♀, June 8, 2012, (whitish type), d: ♀, July 2, 2012.



図 2. 栃木県, 群馬県, 茨城県のアカボシゴマダラ確認地 (黒丸).

Fig. 2. Places in Tochigi, Gunma and Ibaraki Prefectures where *Hestina assimilis* was collected or observed (black dots).

ラチョウ, ヒオドシチョウ, テングチョウと同様にエノキの葉を食べ, 森林だけでなく市街地や公園の孤立木や幼木も利用して環境適応性も高いといわれる (日本チョウ類保全協会, 2012). このことから, オオムラサキなどの在来蝶類との競合が予想される. そのため, 今後この外来種の駆除は重要になると思われる. 現在, 関東一円で定着している外来種アカボシゴマダラは, 年に3回から4回程度発生するといわれ (中村・菅井, 2005), 繁殖力と分布拡大のスピードは驚異的であり, 茨城県桜川市におけるホソオチョウなどの例もあり (井上ほか, 2009), 今後人為的放蝶に対する規制強化などの対抗措置も含め何らかの歯止めをかける必要があると思われる.

なお, 採集したアカボシゴマダラの標本は, ミュージアムパーク茨城県自然博物館に以下の番号で登録, 保管されている: INM-1-50301 ~ 50304.

(キーワード): チョウ目, タテハチョウ科, アカボシゴマダラ, 茨城県.

引用文献

- 安達説輝. 2011. 群馬県におけるアカボシゴマダラの追加報告. 月刊むし, (487): 42.
- 青木好明. 2011. 栃木県小山市でアカボシゴマダラの発生を確認. インセクト, **62**(2): 93-94.
- 江田一男. 2011. 群馬県館林市での蝶3種の採集記録. 月刊むし, (490): 19-20.
- 長谷川順一. 2011. アカボシゴマダラを足利市で撮影. インセクト, **62**(2): 84.
- 平澤雄一. 2011. 栃木県足利市でアカボシゴマダラを採集. インセクト, **62**(2): 94.
- 池沢隆一. 2011. 高崎市内でもアカボシゴマダラの記録. かみつけ, (5): 83.
- 井上大成・久松正樹・鈴木大河・水戸昆虫研究会・筑波昆虫談話会. 2009. 強い採集圧をかけたホソオチョウ個体群の4年間の発生状況-ホソオチョウは採集によって減るか? -. 昆虫と自然, **44**(5): 31-39.
- 加藤義臣. 2007. アカボシゴマダラの白化の謎を探る. *Butterflies*, **45**: 12-19.
- 宮畑裕恵. 2011. 太田市でのアカボシゴマダラの記録. かみつけ, (5): 82.
- 森 一弘. 2012. 茨城県でアカボシゴマダラを撮影. ゆずりは, (52): 67.
- 中村進一・菅井忠雄. 2005. 神奈川県におけるアカボシゴマダラの発生 (2). 月刊むし, (409): 26-32.
- 日本チョウ類保全協会. 2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327 pp., 誠文堂新光社.
- 落合和泉. 2012. 栃木県栃木市におけるアカボシゴマダラの記録. インセクト, **63**(1): 68.
- 関信一郎. 2011. 野田市にもアカボシゴマダラ. 房総の昆虫, (48): 39.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336 pp., 学習研究社.
- 自然環境研究センター (編著). 2008. 日本の外来生物-決定版. 180 pp., 平凡社.
- 矢後勝也. 2012. 2011年の昆虫界をふりかえって. 月刊むし, (495): 2-20.
- 山岸 武. 2011. アカボシゴマダラの確認記録. インセクト, **62**(2): 95.
- 山崎悦子. 2011. 沼田市でアカボシゴマダラを確認. かみつけ, (5): 89.